

電源コード付け根部分の損傷によるショート

様々な電気製品において、電源コード付け根部分の損傷によるショートが原因とみられる発火事故が発生しています。



事例その1: ヘヤードライヤーの本体出口部の電源コードが焦げて電源が入らない。

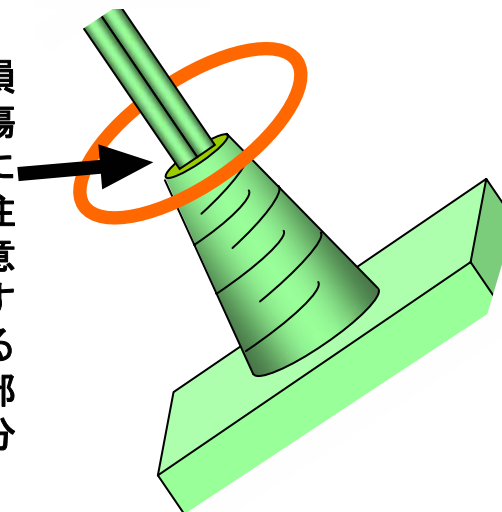
事例その2: 電気あんかを足下に置いて就眠したが、足に熱を感じて取りだしてみると火花が出ており、コードの根本が焦げていた。

事例その3: 寝る前の布団を予め暖めるために電気毛布のスイッチを入れておいたところ、しばらくして炎が上がった。コントローラ付け根のコードが断線していた。

ここに注意！

- ✓ 電源コードの付け根部分は、屈曲や荷重が加わりやすい部分です。その対策として、プロテクタが設けられていますが、繰り返しの屈曲や荷重により断線が発生することがあります。
- ✓ 付け根の損傷に注意を払い、コードの外観に異常がないか使用の度毎に目視確認しましょう。異常があった場合には、当該機器の使用は止め、専門家に修理を依頼しましょう。

損傷に注意する部分



「風呂用投げ込みヒーター」電源コードのショート

浴槽内のお湯の保温に用いられる「風呂用投げ込みヒーター」において、ヒーターの電源コードのショートが原因と見られる発火事故が発生しています。

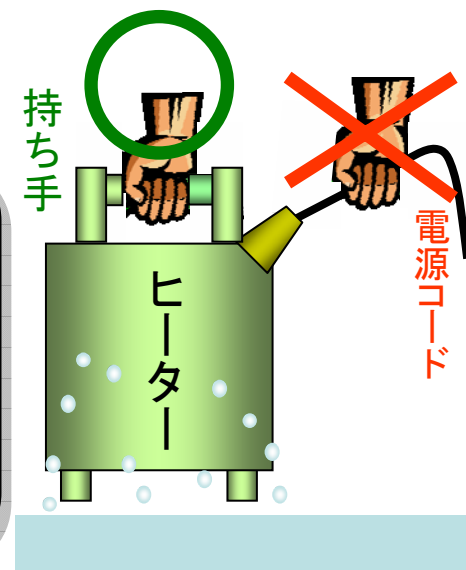


事故の例

脱衣所床面上にスイッチの入った投げ込みヒーターを置いていたところ発火。原因を調べたところ、使用者が電源コードを持った状態で繰り返し浴槽内から出し入れしていたため電源コードを損傷し、ショートが発生したために発火したものとみられる。

ここに注意！

- ✓ 電源コードを引っ張ってヒーターを水中から引き上げると断線発生の危険があります。ヒーターを引き上げる際は、電源コードを引っ張るのではなく、ヒーター上部にある持ち手又はストラップに手を掛けて引き上げるようにしましょう。
- ✓ 電源を投入するのはヒーターが水につかっている間だけにし、ヒーターを水中から引き上げる際には電源スイッチをオフにし、電源コードをコンセントから抜きましょう。



観賞魚水槽用まわりの製品その①： 水槽用ヒーターの過熱

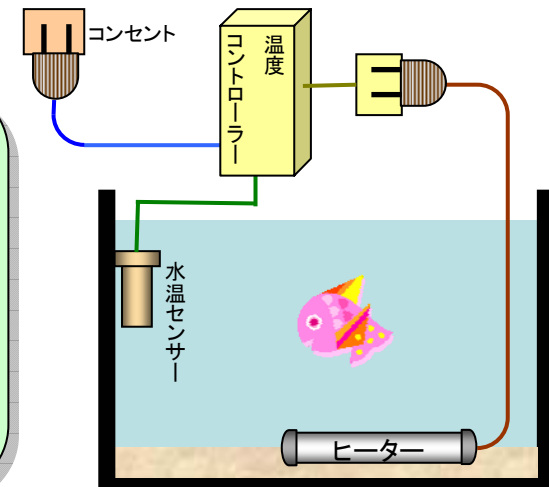
温度コントローラーと必ず組合せて使用するべき
水槽用ヒーターについて、ヒーター単独で使
用したことによる過熱・焼損事故が発生しています。

事故の例

温度コントローラーと組み合わせて使用するべき水槽用ヒーターであるにもかかわらず、温度コントローラーを介さず直接に水槽用ヒーターに通電させたため、ヒーターが水から何らかの理由で気中に露出した際に空だき状態となり水槽が焼損した。

ここに注意！

- ✓ 温度コントローラーと組み合わせて使用することが説明書で指定されている水槽用ヒーターについては、説明書に従い正しく配線し温度コントローラーと組み合わせた状態で通電させましょう。
- ✓ ヒーターが空だきとならないよう、水に十分浸っていることを確認しましょう。



観賞魚水槽用まわりの製品その②： 飛沫によるトラッキング現象発生

水槽近くにあるコンセントに観賞魚水槽からの飛沫がかかったことにより、コンセントから発火する事故が発生しています。



事故の例

リビングルーム壁際に置いた観賞魚用水槽上部から発火した。水槽上部にガラスフタが無く、飼育水の飛沫がライトにかかり、水槽ライトに付属の使用中のサービスコンセントに水が溜まったことにより、コンセントでトラッキング現象を起こして発火したものとみられる。

ここに注意！

- ✓ 水槽ライトや水槽近くの電源コンセントに飼育水の飛沫がかからないよう、水槽の近くに電気機器が置いてある水槽にあっては、フタを取り付けるなどして飛沫が飛び散るのを防ぎましょう。
- ✓ 製品の電源コンセントは飛沫がかからず、ちり、ほこりがたまらない場所に設置しましょう。

